

町政を問う

今回の定例議会でも一般質問をさせていただきます。主に

一、NHK連続テレビ小説「つばさ」について

二、「三芳野菜」のブランド化について

三、農業振興地域整備審議会に
ついて

の3項目ですが、紙面の都合上主要な質問の要点のみをダイジェストでご報告します。

■NHK連続テレビ小説「つばさ」の経

済効果は

林 3月からNHK連続テレビ小説『つばさ』が、埼玉県の川越市を舞台に放映される。埼玉りそな産業協力財団では「つばさ」の経済波及効果を川越市を含め埼玉県内で220億円、川越市の年間観光客数も、250万人増の900万人に上ると見込んでいる。当三芳町にも三富新田や川越のもの産地として、川越に関連する

観光資源がある。当町における経済的な波及効果を含め観光客の誘引策はあるか。

答 産業振興課長 当町への経済効果は不明。観光客誘引には交通アクセスの検討が必要だと思

林

※注1
ロケーションサービスを実施し、『つばさ』の中で三富新田等口

ケ地を誘致したらどうか。主人公の実家は老舗の和菓子屋。サツマイモも題材になると期待されている。『富の川越いも』を本場川越いもとして、番組内で取り上げていただくなど全国発信する広報戦略はないか。

答 産業振興課長 先進地の事例を研究したい。また、広報戦略は特に考えていないが、検討したい。

※注1 フィルムコミッション

とも言い、町の公共施設や景観地を映画やTVドラマ、CMなどの撮影の場として提供し、撮影を通して町のすばらしさを発信することができます。新たな観光資源の発掘や経済効果の向上を目指し、すでに県内10の行政や団体が実施。

◆解説

埼玉りそな産業協力財団は、「つばさ」の舞台となる川越は人口約4000万人を抱える首都圏を代表する観光地であり、『強力かつ広範な観光客誘引効果を持つ』と分析。関東近県や全国の認知度も大幅に上昇し、埼玉県内の各産業にも経済効果をもたらすと期待しています。

当町の現状では、観光行政を進めて行くにはまだ課題があります。『つばさ』放映を契機にロケーションサービスを実施し、三富新田、お茶畑、そば畑、コブシの里、いも畑など撮影場所として提供していくことが、観光行政を進める一歩となりうると考えます。

また、川越市では川越いもの『本場復興』を目指して、行政が農家と「川越サツマイモ商品振興会」を仲介し、サツマイモの栽培を始めました。川越農林振興センター普及部は、将来当町の「富の川越いも」との間に本場争いも起こりうると指摘。新聞紙上では、まだ知名度が低い三芳のサツマイモ。「つばさ」放映を契機に本場の本場として全国発信できたらと思います。



「つばさ」の撮影が始まった時の鐘(川越市)



本場復活に向け、動き始めた川越市、若手農業経営者、和菓子屋、料理店の活動を報じる新聞記事(毎日新聞)。川越いもは「ほとんど流通していない」という認識が新聞紙上では主流となっています。